

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4098700117		
法人名	社会福祉法人光輪会		
事業所名	グループホーム恵のいえ		
所在地	福岡県みやま市高田町濃施501-3 (電話)0944-32-9735		
自己評価作成日	平成 27 年 10 月 12 日	評価結果確定日	平成 27 年 12 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

みやま市高田町の中心部に位置しています。交通の便利も良く、JR、西鉄電車の駅からも近いです。南側にはヨコクラ病院、外来診察、訪問診察でもお世話になっています。24時間いつでも診てもらえる安心感があります。近隣には食料品店、菓子店、図書館などがあり利用者との買い物に行くのも便利です。ボランティアによる訪問も利用者の楽しみの一つです。「利用者の笑顔を大切に」「利用者の声に耳を傾ける」「利用者目線で物事を考える」というホーム作りを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 27 年 11 月 11 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

住宅街の一面に事業所があり、木造作りの明るい雰囲気建物である。道路を挟んだ向かい側には協力医療機関のヨコクラ病院があり、緊急時の医療体制についても安心できる。裏には最近オープンしたキッズハウスがあり今後、園児との触れ合いが増えると思われる。地域の方へ事業所便りを配布し行事の案内を行い参加されることが定着。また、近隣の方が季節の花を持参されたり、お雛飾りの見学のため自宅へのお誘いを受けるなど、開設して日は浅いが地域との関わりがとても深い事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【1 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を常に見える場所に掲示しています。朝礼時に全員で唱和して、理念の共有と実践に努めている。	事業所独自の理念があり掲示している。職員は毎朝の朝礼で唱和することで意識を高め、利用者目線に着目したケアが行われ、地域の一員として慣れ親しんだ地域で生活が続けられるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に事業所として加入、地域の町内清掃、祭りの準備など地域住民との交流に努めている。	自治会に加入し、地域の清掃活動や祭りの準備などに参加している。花火大会や園芸ボランティアなど事業所の行事を広報誌で地域の方に案内し、参加がある。事業所裏にあるキッズハウスの園児と芋掘りしたり、隣の方からお雛様見学の誘いがあるなど地域との関わりが深い。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ、行事（花火大会など）に地域の方達も参加してもらい、接する、交流を持つことで認知症の理解を深めてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しています。利用者の近況報告、行事などの報告、質疑応答を行い、その中で災害対策、避難の準備などの意見をいただき実践してきました。	2ヶ月に一回、家族、行政、地域の代表者などの出席により運営推進会議を開催している。外部評価の取り組みや利用者の状況、行事等を報告する。ここ最近では、夜間の非常災害時を想定し、玄関門扉のカギはわかりやすい場所に置いた方が消防署や地域の方の支援を受けやすいとの意見があり、緊急時の事態に備えることができた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス事業者連絡協議会、運営推進会議、地域連携懇親会などの場を活用しながら意見交換や協力関係を築くようにしている。	介護保険認定更新認定や8月からの利用者負担割合証のことで行政と連絡調整を行った。みやま市の地域密着型サービス事業所連絡協議会に参加し市町村担当者や他の地域密着サービスと共同しサービス向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修会に参加して周知はしている。玄関の出入りにチャイムをつけて屋間は施錠していない。	日中玄関、居室の施錠は行わず、外出傾向のある利用者に対しては、本人の素振や表情で未然に察知し、一緒に外出するなど身体拘束を行わないケアが実践されている。マニュアルを整備し、内部研修により知識や意識向上に努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修会に参加して周知はしている。虐待発見チェックリストを使い、日頃から防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを準備している。いつでも該当者がいれば支援できるようにしている。	利用者や家族がいつでも見れる玄関にパンフレットが置かれている。職員の知識向上のための内部研修が行われ、何時でも説明できる体制は整っているが、利用者、家族への説明が行われていない。	権利擁護の主旨を職員で確認し、今一度制度の趣旨を職員で確認し、利用者、家族へ制度の理解が得られるよう説明の機会を設けていただくことを期待したい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の説明はもちろん、重要事項などの改定の時でも説明を行っている。書面を作成し家族の理解・納得を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置いています。面会時には様子を説明し、希望があれば運営に反映させるようにしている。	日々の関わりの中で管理者や職員は利用者の思いや意見を確認している。家族面会時に職員から声を掛け、意見や要望を伺うように努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼・終礼時はもちろん、月に1回は職員ミーティングを行い提案事項などの意見を出せる場としている。	管理者は常日頃から笑顔と積極的な声掛けを心掛け、職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。毎月一回職員ミーティングを行い、提案事項等について意見を確認する機会を設け、運営に反映している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、勤務実績、能力などを精査・評価を行い、賞与に反映させることとしている。職員が各自で目標を設定し、その成果を上げるための助言、サポートを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用については、公正に試験を行っている。また、職員個々の能力が発揮できるよう外部研修・内部研修を行い職員の資質向上に努めている。	採用選考は性別や年齢等を理由に判断するなどの採用基準は設けおらず、定年後も希望すれば働くことができる。事業所は資格取得にも取り組んでおり、職員の能力を発揮できるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の研修会に参加して周知している。人権を尊重するための教育に努めている。	職員は人権に関する内部研修に参加している。勤務等で参加出来なかった職員へは研修記録や資料を回覧し全職員で人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力を考え、外部・内部研修を計画し計画的に参加するようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力病院の地域連携懇親会、事業者連絡会、研修会に参加しネットワークづくり、質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学をしてもらい、面談をしている。これからの住まいの説明をすることで安心されるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前はもちろん、入所後も本人・家族と面談をしながら関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に尋ねて、何が必要かを確認している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な生活とその人の生活リズムを把握し、何でも話せる信頼関係、生活のパートナーとなれるように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の予定表、新聞、写真等を配布して、生活の様子を伝えている。時には行事への参加を促し関係づくりに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夫の位牌や思い出の写真等を、お部屋に飾ったり、面会の時に行事の案内をする等、接点を持てるように努めている。	利用開始時に本人や家族から大切にしてきた馴染みの場所や友人などの情報を確認している。行きつけの美容室や理容店、利用開始前に利用していた通所介護へ出掛けて情報を得るなどし、馴染みの関係が継続できるよう家族と協力し支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなど利用者同士が関わるプログラムを準備している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所をされても行事の案内をしたり、次の入所先の相談があり、アドバイスをしたこともありました。経過に応じた対応ができるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族と定期的な面談を行い希望や意向の把握に努めている。	日常の会話や 検温の時に声をかけ、利用者の思いや意向を把握するように努めている。また、意思疎通が困難な場合でも表情や行動、入居時に利用者や家族から聞き取った情報等により、利用者本位に考え、検討を行っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより情報を収集し、生活環境を整えるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活シートを作成し、個の生活を大切にしている。現状把握も朝礼、終礼、ミーティングの場を使い情報の共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、または6ヶ月に一度は計画を見直し、家族・本人等の意見を反映する介護計画を作成している。	計画担当者は、介護計画に沿った24時間支援記録(シート)、利用者の担当者からの報告や毎月のモニタリング結果をもとに、医師の意見、家族の意向を確認し、職員の意見等も参考にしながら個別具体的な介護計画書を作成している。また、介護計画書の見直しは随時行われている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンのソフトを使い、食事・排泄・入浴等の項目、生活の様子を記録している。職員も自由に閲覧し、情報の共有、計画見直しに活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの活用、近隣行事(文化祭など)へ参加など外部のサービスも取り入れている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	登録ボランティアに協力してもらっている。本人の楽しみ作り、趣味作りに生かしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員に主治医を持ち、定期的に家族による通院、往診を受けている。その結果は医師と連絡を取り合い、日々の健康管理に努めている。	入居時にかかりつけ医の変更を促すことはなく希望に沿っている。かかりつけ医の往診時も基本的に家族が対応している。緊急な場合は職員が同行したり付き添うが家族に連絡して状態を確認してもらっている。受診の際は日頃の様子を手紙に書いて家族に渡しており、利用者が安心して適切な治療が受けられるよう支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、毎朝・随時のバイタル測定と利用者からの聞き取りをしている。内容と情報は職員間で共有し早期発見・早期治療に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には面会に行き、病棟スタッフ・連携室と情報交換を行い、退院後にも対応が迅速に進むように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院や関連施設の特別養護老人ホームなど協力を得ながらチームで対応できるように努めている。家族や本人の希望を尊重したケアを主治医と相談しながら行っている。	利用者家族は、同法人の特別養護老人ホーム、また関連施設の医療機関が隣接していることで、十分な医療や終末期の介護も期待して入居を決められた方も多い。事業所もできる限りの支援に努め、困難な場合の対応は医師の意見、利用者家族の意向を確認しつつ支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを整備しており、さらに実践でも対応できるように研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行い、避難の方法・連絡方法を職員間で共有している。自動通報装置を使い、地域・関連施設からの応援体制も整えている。	日中に夜間想定を含む年2回の避難訓練を隣近所に知らせて実施している。災害時は関連施設の応援が得られるようになっており、非常口の鍵は隣接の医療機関と母体施設にも保管されている。非常用食料、飲料水、備品は事業所内に準備しており、衛生用品、米、布団等は余裕を持って保管している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を常に心がけている。話す時も同じ言葉かけを心がけている。尚、職員の倫理規定を掲示し、常に職員が意識して行動するようにしている。	職員は、居室に入室する時などに利用者から気持ちよく了解を得られるように、日頃から信頼関係を心がけている。管理者は、職員が利用者の人格を尊重した声のかけ方が不適切であった場合やプライバシーの配慮が欠けていると思われる場合はその都度指導を行うように努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話をしながら、本人の希望を聴いたり、その旨を家族へ説明し、なるべく意向が叶うようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人へ尋ね、希望に添うよう支援をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、化粧・洋服の好みを尋ねている。化粧品の購入、2ヶ月に1回はカットを家族にお願いしたり、身だしなみの支援をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者で、盛り付け・配膳・片付けなど行っている。食事は夕食と行事食と一緒に食している。「和気藹々」と食事が楽しみとなるように努めている。	管理栄養士が献立を作成し、利用者の嗜好や希望には毎日の手作りおやつで対応している。利用者の健康状態に合わせた調理を提供しており、また利用者と職員と一緒に味見、準備、片づけ等も行っている。食事中は軽音楽を適度な音量で流している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成し、水分量・摂取量なども記録している。医師の指示で麦茶やポカリスエットを準備などしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがいをしている。手直しの必要な利用者には、本人が磨いた後に、再度磨くようにしている。歯科往診で治療を受けることもある。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎の排泄記録表を作成し、トイレへ案内している。排泄自立へ向けて努めている。	排泄チェック表を利用して、個々の排泄を管理している。自立して自室のトイレを使用する利用者も多く、布パンツ使用者も数名いる。利用者の様子や行動を見てトイレに誘ったり、排泄時間が2時間以上になると声かけを行い排泄の自立支援を行っている。排泄を失敗した場合はトイレで着替えたり、浴室へ誘導して保清を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操など身体を動かす内容を取り入れたり、腹部マッサージ、医師の指示で緩下剤を使うなど便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週3回、または希望があれば毎日でも入られる環境は整えている。時間も午前・午後・夕食後等、幅広く対応できるように努めている。	入浴は、利用者の希望に応じ日曜日も含めて毎日対応している。職員は一人ひとりの体調に合わせた入浴介助や支援を行っている。入浴を拒否する利用者の場合は、利用者の意向を汲みながらも誘導のタイミングを見計らい、気持ちよく入浴ができるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調をみながら休んでもらったり、個々人で休みたい時は、お部屋で休んでもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲んでいる薬の「効能書」をファイルしている。職員がいつでも閲覧して確認できるように努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前に確認をするようにしている。仏壇にお参りをしたり、編み物・読書等がされます。楽しみ作り・気分転換の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関前の散歩は自由に行かれます。職員が介助し図書館、買い物等、行くこともあります。また、家族の協力でも外出することもある。	季節ごとの花見や野外バーベキュー等の行事があり、毎月1回程度はドライブを行っている。近隣への買い物は希望や状況に合わせて、また散歩は毎週1回程度行なっている。家族は行事のない日に外出を予定されたり、事業所の門までの前庭を散歩する等、戸外で過ごせるよう工夫し支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を自分で管理されている利用者もいます。自分の好きな物を買って支払をされます。物を買う実感が得られるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の申し出があったら直ぐに対応している。手紙も届いたら本人へ渡している。返事を勧めたり、やり取りができるように支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を材料として、天井も高く開放感がある。室内の装飾もステンドグラスを使い、目で見て美しい空間になっている。花を飾ったり、季節感を出すように工夫している。	共用空間には居室ドアの大きなステンドグラスと異なる花図が眺められる。管理者はイベント関係のもの、季節感のある飾り、生花や鉢植えを置くように心がけている。採光や温度も適度で、嫌な臭いがなく清潔に保たれている。昨年は、グリーンカーテンコンテストでも優勝している。居心地の良い空間となっている	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、皆さんでくつろげる空間にしている。テーブルでは、一人で手紙を書いたり、本を読んだりされる。思い思いに過ごせるように工夫をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらうようにしている。人形・思い出の写真などをレイアウトして居心地良く過ごせるように工夫している。	居室にはベッドの他に家具が用意されている。利用者は、家族の写真、テレビや仏壇、使い慣れた身の回りのものを持ち込まれている。生花や手作りの品が飾られ、家族が協力しレイアウトや整理整頓がされており、利用者個人の生活や好みも反映された設えになっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーになっている。リビングを囲むように、手すりを設置。トイレ、風呂場も同様です。玄関にはスロープを作り自立した生活が送れるように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない